



えがお！松本だより

自ら、そして仲間と、未来をたくましく生きる力を身につける子

福井市松本小学校 学校だより
令和6年12月23日 第13号
TEL 22-8813 FAX 22-8892
Mail matsu-e@fukui-city.ed.jp

今年も残すところあと1週間あまりとなりました。4月より、松本っ子は学校生活の様々な場面で「自ら、そして仲間と、未来をたくましく生きる力」を身につける活動を行ってきました。

11月28日(木)に行われた松本フェスティバルでは、当日に至るまでの「過程」を大事にしました。子ども主体で考え、話し合い、アイデアを出し合って決めること。これは、できるだけなかなか難しいことです。まずは、ねらいをはっきりさせないといけません。子どもたちは、各学年・縦割りグループそれぞれの場面で、「私たちは、どんな目的をもって活動しよう。何を自分たちで達成したいか。そして何を伝えたいのか。」を真剣に考え、議論したことと思います。まさしく、人(大人)に決めてもらうのではなく、自分事として自分たちで考え、決めていくのです。これは、これまでの学校行事とは全く違ったスタートからの道のりだったと思っています。だから、何をやるかがなかなか決まらないこともありました。教師たちもその時のことを、フェス後の話し合いで振り返っています。「決まるまでの時間は、混沌(こんとん)とした時間があつた」と。ただ、その混沌こそを保証する中で、だんだんとねらいが明確になり、そこから自分たちがやるべきこと・やりたいことが見えてきた子どもたち。そこからはまさしく「仲間と協働し、感動を味わう」ための「主体的」な活動が、子どもたちによってエネルギーに展開されていきました。

縦割り活動では、6年生を中心に「みんなでつながり合う」場面が至るところで見られました。「どうやってみんなの意見を吸い上げるか」「みんなが納得する話し合いをした上で、何をやるかの結論を出すにはどうしたらいいだろうか」「決めた内容を、どうやって小さい子たちに分かりやすく伝えるか」など、上級生は一生懸命考えて、ふれあいタイム(縦割りグループの活動時間)を、見事に運営しました。上級生はその姿をもって下級生にリーダー像を示しました。様々なリーダーの形があつたこと、それも大変素晴らしいことです。そのマインド(心)は、確実に次のリーダーや下級生に受け継がれていきます。

学年活動では、学校でともに学ぶ仲間だからこそ、「私たちの学年は、何をめあてとし、何を創り上げていくのか」を真剣勝負で決めていく過程がありました。また、時間や場所、全ては有限です。「いつまでに、何を」を子どもたち自身が意識し、創り上げていく過程が見られました。「子どもたちの中から今日の活動の進行役が出てきて、めあてを伝えて活動に入るようになった」「子どもたちが感想を言い、『次の活動では〇〇ができるように頑張ろう』と、次のめあてを子どもたちが伝え、意欲をつなぐようになってきた」など、これらも教師が振り返っていた内容です。子どもたちが日々かっこよくたくましくなっていくのが教師にも伝わるのですから、協働で活動する子どもたち同士での気づき合いや学び合いは、どれだけ大きいものであつたかと思います。

そして当日。たくさんの保護者や地域の方のまなざしに見守られながら、子どもたちは、自分たちが創り上げてきたことを、その過程も含めて見事に出し切りしました。つけたい力「自分を知り、信じる力」「相手を大切に、関わっていく力」「自分の考えをもち、伝える力」「失敗を恐れず、挑戦する力」は、バラバラにではなく、絡まり合って相互作用的についていき、「感動する力」につながるといことも、今回の松本っ子の成長の過程から、私たち教職員が学んだことです。

今年度の成果や課題を振り返り、「子どもたちが主体で考え、話し合って決めていく」活動を考え続けていき、今後も「未来をたくましく生きる力をつける松本っ子」の育成に努めていきます。

保護者の皆様、本年中は大変なお世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

<前日準備の様子>



<当日の様子>

